

指標の選定について (案)

1. 指標の選定手順(案)
2. アクティビティ・アウトカムのフロー図
3. 指標(案)の選定

1) 指標の選定手順(案)

(1) 港湾物流に関わる施策のアウトカムの流れ図(ロジックモデル)

- ・計画、施工、供用の各段階におけるインプット、活動(アクティビティ)、アウトプット、アウトカム

(2) アウトカムの選出

- ・特定の施策などが目指す結果を表すことができるアウトカム
- ・行政の効率化(競争原理、現場主義)に資するアウトカム
- ・国民への説明責任など(成果主義、顧客主義)に資するアウトカム

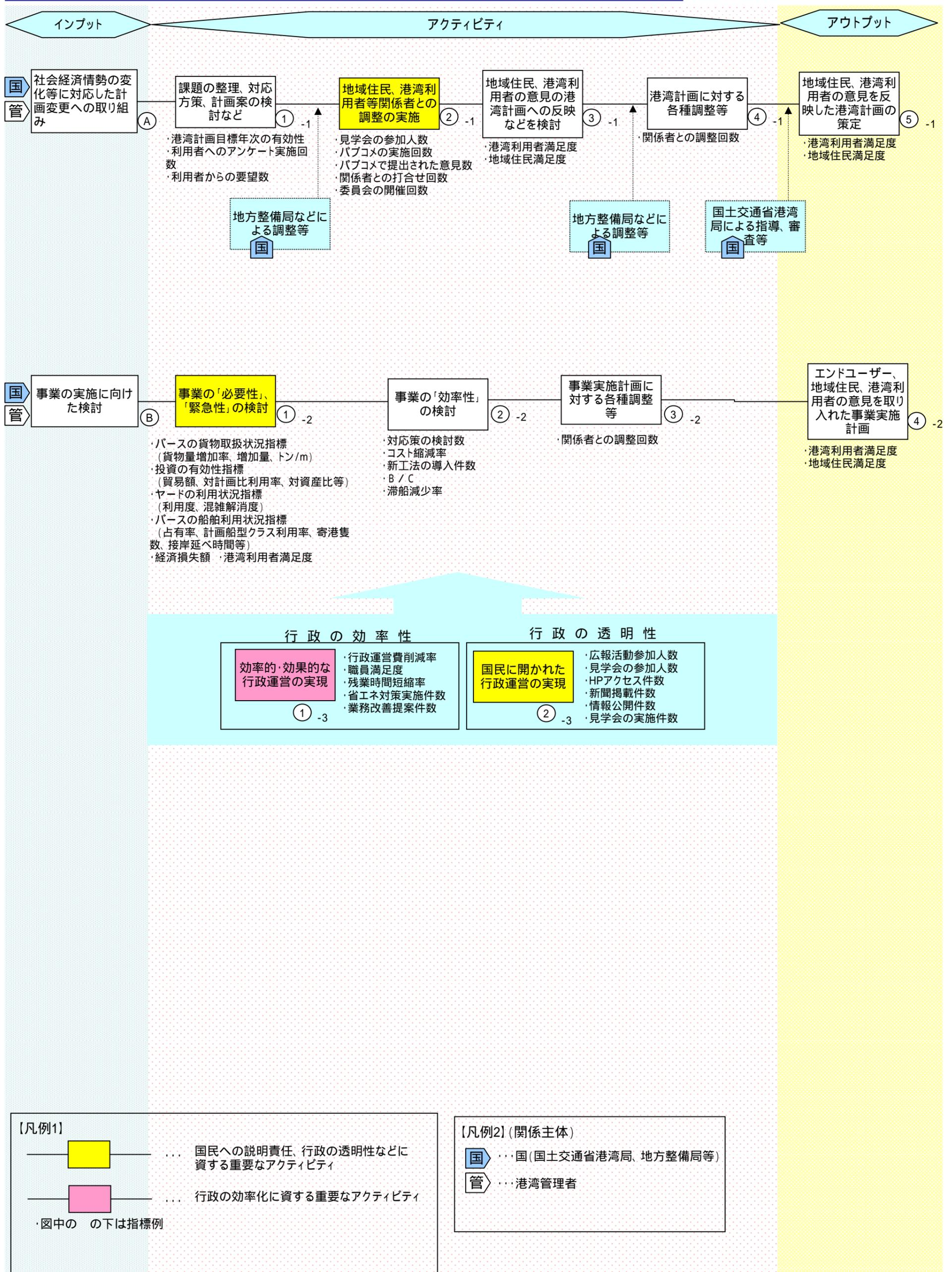
(3) アウトカムに関わる指標候補案の選出

- ・エンドユーザーに限らず、**中間顧客(港湾利用者など)の成果に関わる指標**
- ・競争原理によるベンチマーキングなどを目的とした**全国的な統一指標**
- ・個別の事務所など独自の設定も許す**現場のマネジメントに資する個別指標**

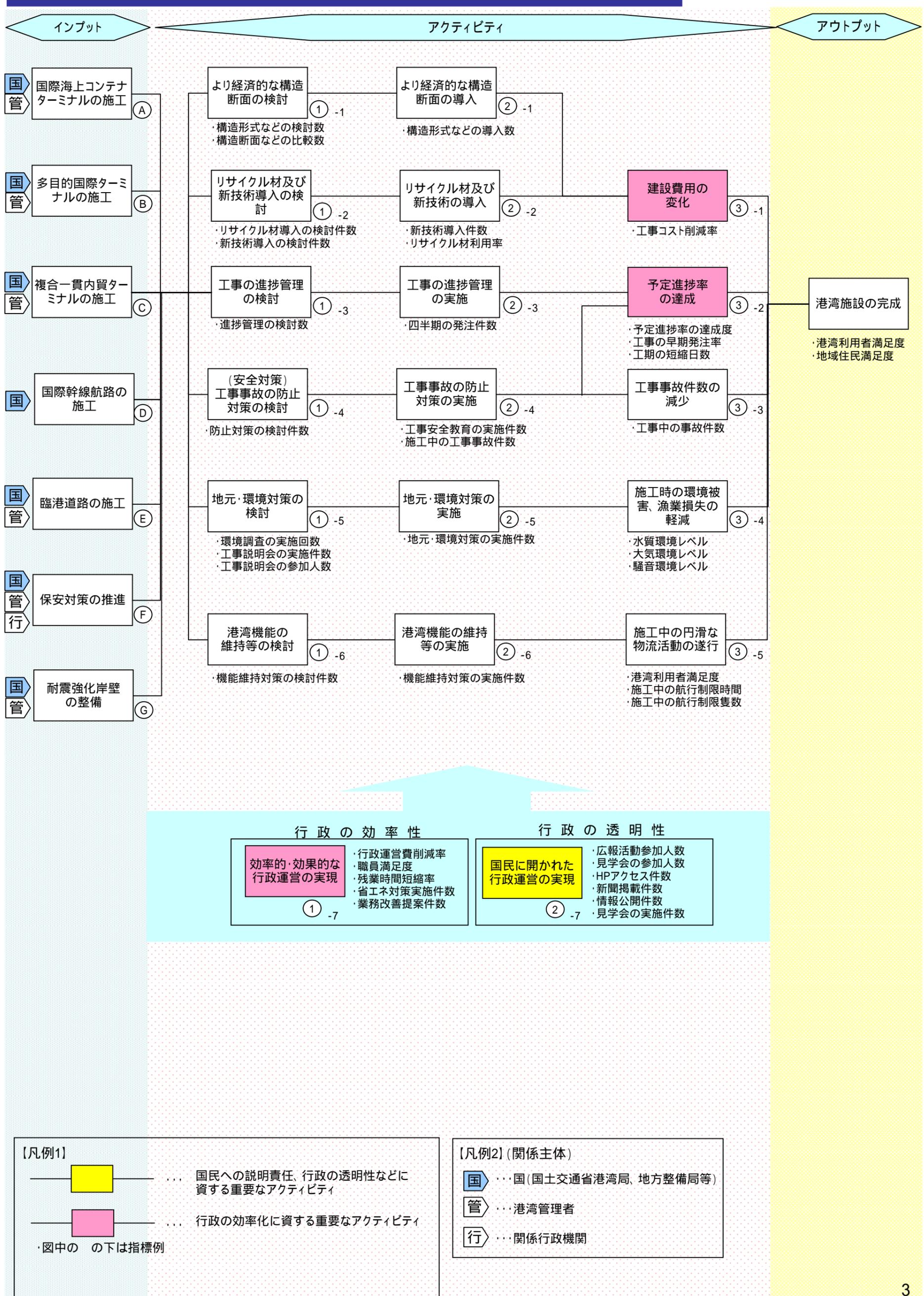
(4) 指標案の選定

- ・アウトカムにとっての重要性や適切性、わかりやすさ
- ・データの収集や費用、継続性
- ・指標の独自性や加算性 など

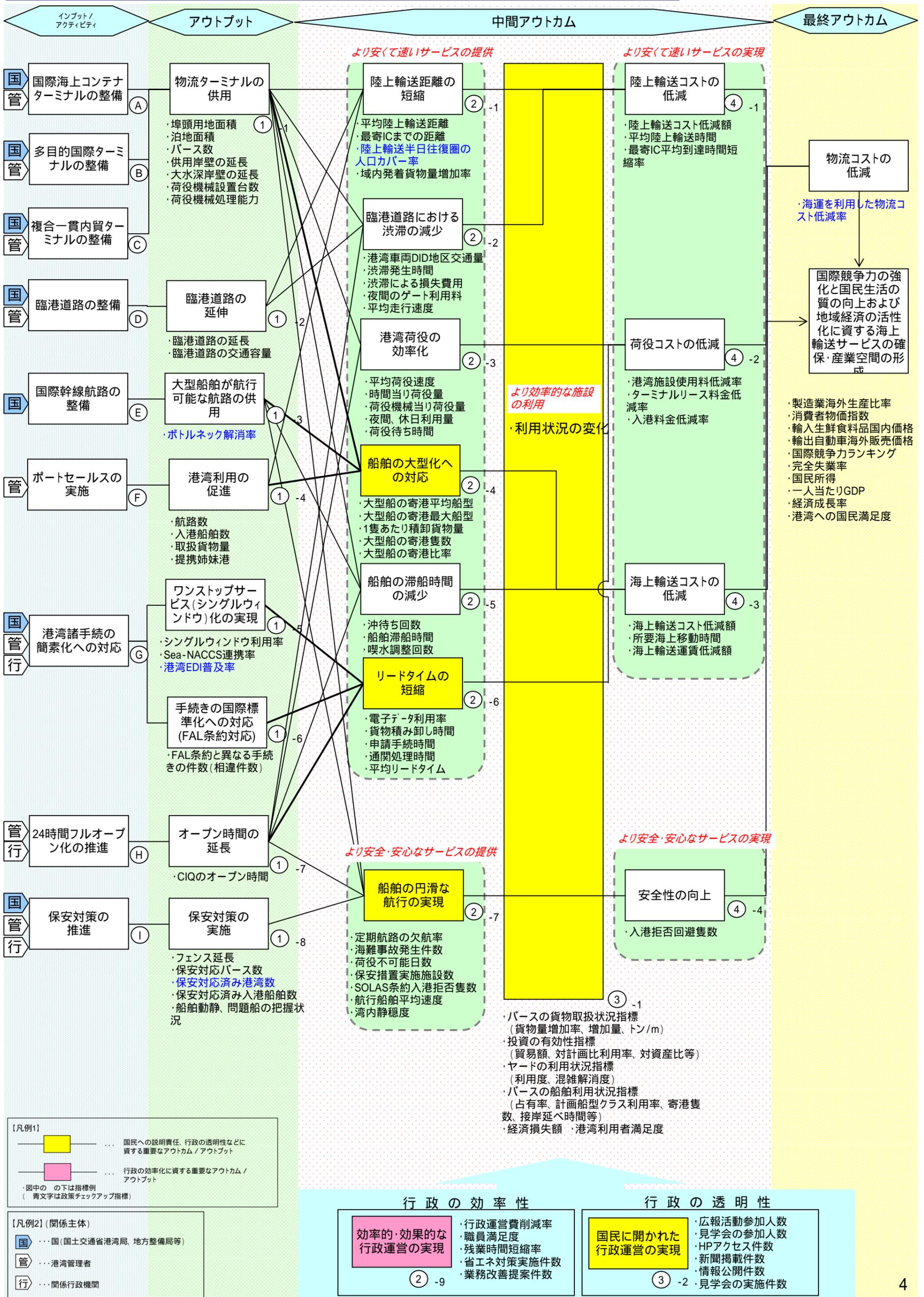
2-1) 「計画段階」を対象としたアクティビティのフロー図



2-2) 「施工段階」を対象としたアクティビティのフロー図



2-3) 「供用段階」を対象としたアウトカムのフロー図



3) 指標(案)の選定

A. 国民への説明責任・成果主義などへの対応

(1) より安くて・速いサービスの提供

〔指標- 1〕 大水深ターミナル等における寄港船舶の平均船型

〔指標- 2〕 港湾の入出港に関わる手続きの電子データ利用率

（スケールメリットによる
より安いサービスの提供）

（時間短縮による
より速いサービスの提供）

〔指標- A1〕 現場の事務所による独自指標・・・必要に応じ追加

(2) より安全・安心なサービスの提供

〔指標- 3〕 主要ターミナルにおける定期航路の欠航率

〔指標- 4〕 開発保全航路等における海難事故発生件数

〔指標- A2〕 現場の事務所による独自指標・・・必要に応じ追加

(3) より効率的な投資・有効的な港湾の利用の実現

〔指標- 5〕 目標取扱貨物量の伸び率

〔指標- 6〕 港湾の年間貿易額

〔指標- A3〕 現場の事務所による独自指標・・・必要に応じ追加

(4) より透明性の高い行政の実現

〔指標- 7〕 港湾広報活動への年間参加人数

〔指標- A4〕 現場の事務所による独自指標・・・必要に応じ追加

B. より効率的な行政への対応

(1) より効率的・効果的な行政への対応

〔指標- 8〕 事業計画の予定進捗率の達成度(単年度ベース)

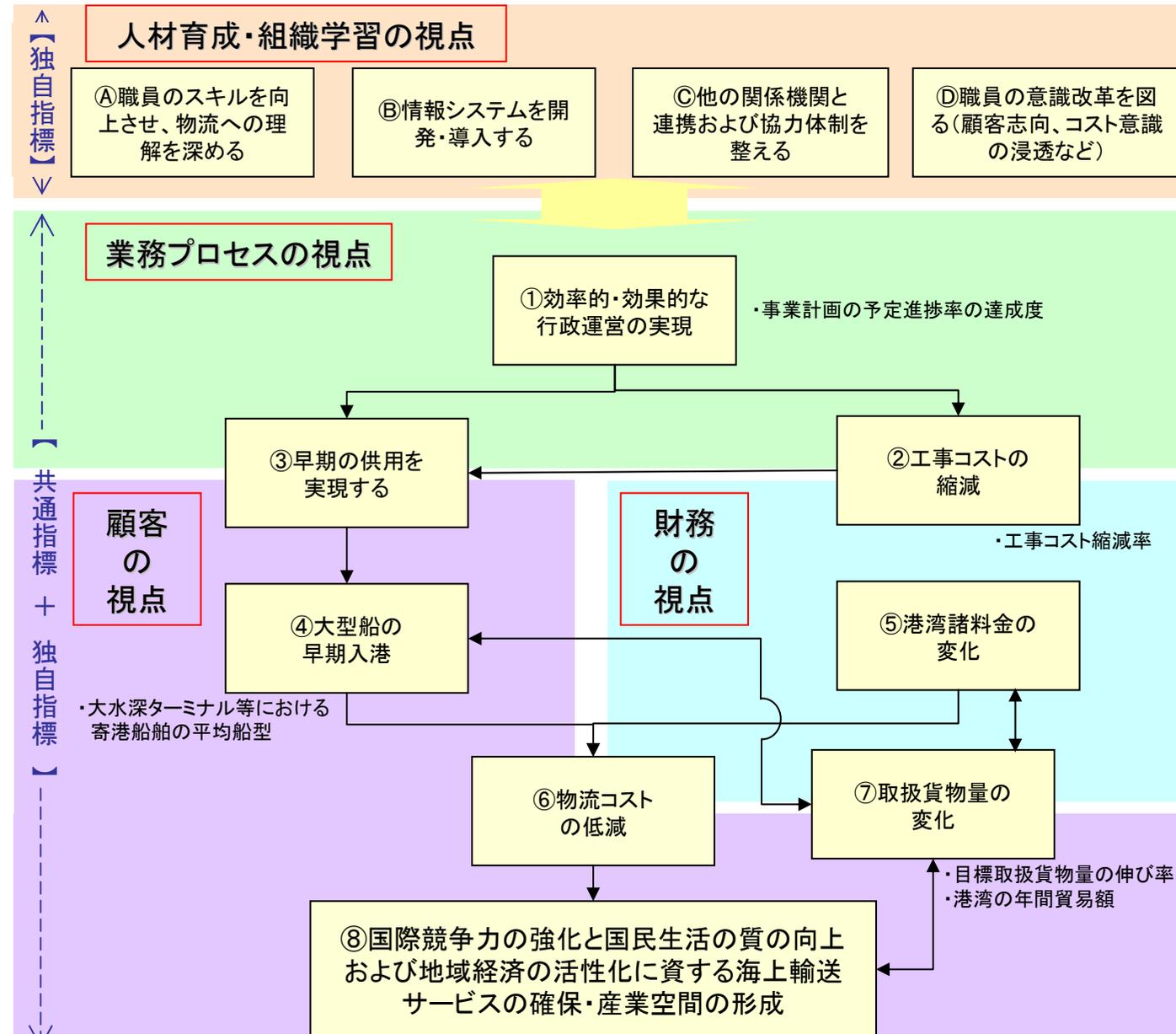
〔指標- 9〕 工事コスト縮減率

〔指標- B1〕

〔指標- B2〕

現場の事務所による独自指標(今後追加検討)

(参考)現場の活動改善と 港湾行政の目標実現との連鎖フロー



現場の日々の活動改善

◇より効率的な行政への対応

港湾行政の目標の実現

◇国民への説明責任・成果主義などへの対応

※バランス・スコアカード: 1992年にロバート・キャプランとデビッド・ノートンによって提唱された、組織のビジョンや戦略を実現するために重要な4つの視点などに基づき、バランスよく組織が向かうべき方向を定める手法。

(参考) 独自指標の策定について

下記の2つの視点で、独自指標の設定を行う。

①効率的、効果的な行政の実現に向け、現場の日々の活動状況を改善するために、事務所毎の戦略に基づき事務所が独自に設定する指標。

■ 指標の設定の必要性

- ・共通指標に設定した事業の進捗状況などの指標のみでは、職員の日々の業務改革などに直結しづらい。
- ・事務所毎の戦略により、指標が変わりうるほか、現場において指標自体を検討することにより、改革への意識向上に資する。

【事務所の内部の状況】

- ①最近、無断欠勤者が増加している
- ②残業時間が長く、モチベーションが下がっている
- ③ターミナル整備工事で事故が起きた

■ 指標の選定手順

- ・現状の事務所の課題、事務所ならびに各セクションの今後の業務戦略などを検討し独自指標の候補を選定。
- ・指標のフォローアップや、職員の意識改革などへの寄与度を考慮して、指標を選定し、目標値などを設定。

【独自指標のイメージ】

- ①『無断欠勤日数』
- ②『残業時間』
- ③『工事事故発生件数』

②国民への説明責任、成果主義などへの対応をより一層図るために、全国的に共通に定めた指標のほかに、地元の港湾のおかれている状況などを踏まえて、地域住民などに成果をわかり易く提示するための指標。

■ 指標の設定の必要性

- ・共通指標のみでは、当該事務所の管轄する港湾のおかれている状況、抱える課題などの状況、整備による成果などを網羅できないことも想定されるため、必要に応じて地域住民などに示すわかりやすい指標を選定する必要がある。

【地元が置かれている状況】

- ①船舶の沖待ちが生じている
- ②外貿ターミナルにおいて保安対策が進んでいない
- ③港湾関連車両による道路渋滞が発生している

■ 指標の選定手順

- ・所管する港湾のおかれている状況などを勘案し、地域住民などにわかりやすく提示する成果目標としては何が適切かを考慮して、独自指標の候補を選定。
- ・指標のフォローアップのデータ取得性等も考慮して、指標を選定し目標値を設定。

【独自指標のイメージ】

- ①『港湾における船舶の沖待ち回数』
- ②『国際船舶・港湾保安法に基づいた保安措置の実施設数』
- ③『港湾関連車両のDID地区の道路交通量』